

白石市の具体的な取り組み

地域での生活を支える医療サービスの構築

仙南サナトリウムが県の指定を受けて「宮城県認知症疾患医療センター」を9月から開設（広報しろいし11月号掲載）。医療が必要な時に相談を受けたり治療後の在宅復帰を支援してくれたりする医療機関です。

早期診断・早期対応

ものわすれ相談

認知症が心配だけど、どこに相談したら良いのかわからないという人を対象に、専門医の相談を実施しています（35ページ参照）。

かかりつけ医認知症対応力向上、認知症サポート医研修終了者一覧

日ごろから身近なかかりつけ医に認知症のことを相談できる体制づくりのため、県が地元の医師を対象に研修会を開催しています。

さわやか訪問

ケアマネジャーが自宅を訪問し、体の衰えのことや介護のことについて相談を受け、生活不活発病の予防を図ります。

脳の健康教室

認知症予防のため、毎年7～11月まで、ふれあいプラザで脳のトレーニング教室を開催（二次予防対象者や認知症が心配という方を対象に実施）。

介護予防教室

筋力の低下や外出機会が減少した方など、今後認知症も含め要介護状態になる恐れのある方を対象に、住み慣れた地域で仲間と一緒に通う介護予防教室を開催。本年は、越河公民館など3カ所で開催しています。

地域での日常生活・家族の支援の強化

認知症サポーター養成講座

認知症と診断されても地域で生活続けるためには、地域の方々の支えと理解がなければ生活できません。そこで、当センターでは「認知症理解のための出前講座」を開催しています。

認知症サポーターは現在、市内でも2,000人以上。各地区自治会の防災訓練や婦人防火クラブや民生委員の集まりなど多岐にわたり実施しています。本年は、福岡中学校や第二小学校の児童・生徒など、多くの子どもたちが受講してくれました。核家族化が進み、高齢者と触れ合う機会が少なくなった子どもたちが、講座を受講後、認知症の高齢者に会いに行った場面では、暖かく声をかけたり手を握ったりと、心温まる光景を目の当たりにしました。日ごろ、無表情な高齢者が、子どもたちがそばに近づいただけで明るい顔になり、表情が豊かになりました。認知症を患っても人の笑顔は分かります。高齢者に会いに行った児童は「優しく接したい」「困っていたら助けてあげたい」と話していました。

子どもたちの手本になれるように、私たち大人が、認知症の方々との接し方を地域で考えて行かなければならないのではないのでしょうか。

認知症ケアパス作成

「認知症かも？」と心配になったときに相談できる窓口や医療機関、介護サービスなどを知ることができたり、相談が途切れないような仕組みを、現在作成中です。

地域での生活を支える介護サービスの構築

地域密着型介護サービス

認知症で一番、介護の負担になるのは、徘徊や家族に攻撃的になることではないでしょうか。このような症状が出たときに、その人に合った介護サービスを受けると症状が緩和されることがあります。症状が緩和し、在宅生活が継続できたり、一人暮らしは無理でも仲間と一緒に生活を続けたりできるように支援しているのが認知症対応型デイサービスや認知症対応型共同生活介護（グループホーム）などの地域密着介護サービスです。

各グループホームなどでは、地域住民の方々も含めた運営協議会を開催し、地域の住民を招いた催しを行うなど、地域住民との交流を大事にしています。

職員の知識と経験を生かし、利用者の社会参加の機会を増やすことや、これまでの人生を尊重する介護サービスを提供することで、利用者の症状が落ち着き、笑顔になることがあります。各グループホームでは今後、このノウハウを地域住民に還元していくために、認知症の相談を積極的に行うことになりました。

「認知症の方の介護の仕方がわからない」「本当に落ち着くのかしら」と思っている方、ぜひ施設見学などをし、楽しそうな利用者の笑顔を見に来てください。

認知症家族のつどい

当センターでは、認知症の方やその家族に対する支援として、「認知症家族のつどい」を支援しています。本人の介護が理由で参加できないという方には職員が付き添うなど気兼ねなく参加いただけるようになりました。会場も、子どもの声が聞こえるふれあいプラザに変更して開催しています。認知症の方の介護は大変心がすり減ります。同じ悩みを持つ家族会の方との交流などを通し、介護の負担を減らしましょう（26ページ参照）。

認知症カフェ「オレンジカフェ」

「認知症ではないが、認知症の方や家族との交流をしたい方」「認知症のことが心配なんだけど、どこに相談に行けば良いのか分からない」との要望に応え、当センターでは、「認知症カフェ」を12月からふれあいプラザにて開催します。会場では、本人や家族との交流や簡単な脳のトレーニング方法の紹介、認知症地域支援推進員や保健師などの個別相談などを行います。皆さんに自由に参加してもらい、認知症についての情報交換や交流の場としてのカフェを目指します。

●12月の開催日 12月2・9日（いずれも火曜日）
9:30～11:30



▲脳の健康教室で、笑顔で楽しく脳を活性化！

「認知症施策5か年計画（オレンジプラン）」

地域包括ケアシステム構築を目指して

認知症と診断されても安心して暮らせるまちをつくるために
私たちは今、何をしなければならないのか…

☎地域包括支援センター ☎22-1466



1 地域ケア会議で認知症ケアパス作成のグループワークを行う同会議委員たち 2 白二小児童たちが認知症サポーター養成講座受講後、施設を訪ね、施設利用者と触れ合った 3 認知症サポーター養成講座に参加した福岡中の生徒たち

地域包括ケアシステム

認知症は、生活不活発病や老化など、さまざまなことが原因で発症すると考えられています。認知症患者が増加している中、病気になるまでも在宅で暮らせる仕組みづくりを自分のまちに合った形で構築していくというのが「地域包括ケアシステム」。市では、認知症の予防や、認知症患者やそのご家族を対象に、笑顔で生活できるお手伝いをしています。年齢を重ね、病気がけがをしたり認知症になったりしても、住民みんなで支え合い暮らしていけるまちづくりを一緒に考えていきましょう。

白石の認知症の現状

国は、今後さらに増加するであろう認知症高齢者に対応するために、各市町村が取り組むべき方向を示した「オレンジプラン」（平成25（29年）の概要と本市の取り組み現状をお知らせします。